

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2010年1月15日

## 1. 概要

実践団体名	早稲田レスキュー		
連絡先	080-6650-7868 (現代表 岸健太郎)		
プランタイトル	防災オリエンテーリング		
プランの対象者	大学生、教職員・保育士等、地域住民、防災関係者	対象とする災害種別	地震

### 【プランの目的・ここがポイント！】

- ①地図を使わないまち歩きの実施
- ②新宿区、新宿区耐震協議会、消防署、消防団、地域住民、学生という幅広い集団が一堂に会したコミュニケーションの場の創設
- ③大人と子ども視点を交えた防災マップへのブラッシュアップ

### 【プランの概要】

早稲田防災アカデミーを軸に、大人の視点と子どもの視点でまち歩きをし、それぞれの立ち場で発見した地域の課題をマップに起こす。その大人と子どもそれぞれの視点でまち歩きを繰り返すことで、地域の課題を浮き彫りにし、まちの課題を一つずつ解決する。その始めとして、早稲田防災アカデミーで、行政・住民・大学・学生が一つのグループとなり、相互に持つ情報を交換しつつ、新たな地域の課題を発見するようコーディネートした。このまち歩きは、関係各所の今後の関係性構築にも主眼を置いたため、あえて地図を使わず、相互のコミュニケーションを取ることに重点を置いた。今まで、築くことのできなかつたコミュニケーションの場を創出することができ、また地域の課題や今後のまち歩きの資源を発見することができた。

### 【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・地図を使わないまち歩きを実施することで、参加者相互がコミュニケーションを取ることができ、通常関わることがないグループ間の交流が可能になる  
(例) 新宿区耐震協議会と消防署員、消防団
- ・目線の違うまち歩きを実施することで、単独では感じ得ない問題点を相互に認識することができる

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

## 2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2008年 6月	防災キャンプの企画立案	事前のまち歩き①	
2008年 7月	防災キャンプの企画調整		
2008年 8月			8、9日 防災キャンプ（中止） 29、30日 NHK防災パーク2009
2008年 9月	企画の見直し	行政、商店会、町内会、 大学それぞれと打ち合わせ 事前のまち歩き②	23日 地球感謝祭への参加
2008年 10月	企画のブラッシュアップ	行政、商店会、町内会、 大学それぞれと打ち合わせ 事前のまち歩き③	
2008年 11月		行政、商店会、町内会、 大学それぞれと打ち合わせ 事前のまち歩き④⑤	16日 早稲田大学防災訓練 23日 早稲田防災アカデミー 29日 西早稲田子ども天国
2008年 12月	マップの作成 最終報告書の作成		
2009年 1月	マップの作成 最終報告書の作成		月末 学生向け防災啓蒙授業の撮影 (インターネット配信)

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 3. 実践したプランの内容と成果

### 【実践プログラム①】

タイトル	防災キャンプ2009
実施月日（曜日）	8月8日（土）、9日（日）
実施場所	新宿区立早稲田小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：岸 健太郎 所属・役職等：早稲田レスキュー・団体会員
所要時間または「コマ数×単位時間」	11時間（2日間） ※1日目5時間、2日目7時間
プログラムのカテゴリ、形式	体験学習
活動目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び、楽しみながらの防災啓蒙</li> <li>・防災に関する知識を深める</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生に防災の知識を啓蒙する</li> <li>・小学生目線での地域の防災意識を知る</li> </ul>
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、5月中頃 岸が担当者に就任、各プログラムの担当氏名と、対象3つの小学校や商店会との調整を始める</li> <li>2、6月中頃 プログラム完成（自由記述欄参照）</li> <li>3、7月初旬 各校にビラを配布する 児童の集まりが悪かったため、PTAを介しての宣伝や夏季のラジオ体操での配布も実施する</li> <li>4、8月5日 参加者過少により中止を決定</li> </ol>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛込消防署の協力（水消火器体験・煙体験等を予定していた）</li> <li>・早稲田大学周辺商店連合会の協力（主催・財政・広報等）</li> <li>・緊急地震速報デモンストレーション用の機会</li> <li>・防災迷路</li> </ul>
参加人数	0名（申込人数は2名）
経費の総額・内訳概要	0円（商店会が主催ゆえに商店会が全額負担のため）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動き出しの遅さや周辺地域との交渉の重要性などを企画運営の反省材料とし、防災アカデミー運営の糧となったこと</li> <li>・準備を通して、地域住民（主に商店会）との関係性を構築が進んだこと</li> </ul> <p>【課題】</p>

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

	<ul style="list-style-type: none"><li>・インフルエンザの流行など安心、安全面への準備が不十分だった。</li><li>・企画から準備のまでの遅れなど計画性が欠如していた</li><li>・周辺団体で同時期に同様イベントが実施されるなど、情報把握が不十分だった</li></ul> <p>以上より、小学生を十分な人数集めることができず、企画自体を中止せざるを得なかったこと</p>
<b>成果物</b>	特になし

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 【実践プログラム②】

タイトル	早稲田大学 防災訓練
実施月日（曜日）	11月16日（月）
実施場所	早稲田大学早稲田キャンパス構内（14号館、14号館前、16号館）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：早稲田大学職員 所属・役職等：早稲田大学総務部環境安全管理課
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間半 （当日の準備時間を含めると、4時間）
プログラムのカテゴリ、形式	避難・防災訓練、体験学習
活動目的	災害を想定した訓練、防災意識を高める、その他（早稲田防災アカデミーの広報）
達成目標	授業中の学生の円滑な避難と被災体験
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1、授業中に大規模地震を想定した地震の発生の告知 2、避難場所まで避難 3、集合場所で大学の取り組み紹介 4、起震車などの防災体験学習の実施 5、 $\alpha$ 米の配布 6、防災マニュアルの配布（大学と早稲田レスキュー協共同作成物）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・教育学部の学生約500名 ・起震車、AED、煙体験用テント等 ・備蓄米 ・テント、長机、椅子、ヘルメット、マイク、マスク等
参加人数	教職員約50名、学生約500名
経費の総額・内訳概要	大学主催行事ゆえ大学全額負担のため、詳細は不明
成果と課題	【成果】 ・学生の防災意識の向上 ・大学と早稲田レスキュー間の関係性の構築 【課題】 ・学生の主体的に参加しようという意識の欠如 ・訓練が単に訓練として終了し、継続性といった中長期のビジョンの欠如
成果物	・早稲田レスキューの活動を広く学生に告知する機会

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 【実践プログラム③】

タイトル	早稲田防災アカデミー（まち歩き）
実施月日（曜日）	11月23日（祝、月）
実施場所	早稲田大学早稲田キャンパス構内（2号館前）及びキャンパス周辺地域
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：中駄修平 所属・役職等：早稲田レスキュー・副代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間 （当日の準備時間を含めると、4時間） （まち歩き終了後、防災体験学習とシンポジウムを行い、その二つで2時間半）
プログラムのカテゴリ、形式	イベント、その他（まち歩き）
活動目的	防災に関する知識を集める、その他（コミュニケーションを図る場を創設する）
達成目標	地域の課題発見と参加者間のコミュニケーション
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、学生が事前にまち歩きを実施し、課題を把握しておく</li> <li>2、事前に把握した課題を、紙ベースの指令に落とし、地図なしでまち歩きをする</li> <li>3、コーディネータが課題を振りながらまち歩きを実施し、こちらの用意した課題点を見つけていく</li> <li>4、こちらの用意した課題以外で気がついた問題点を挙げてもらう</li> <li>5、その挙げた問題点について、行政の視点や専門家の視点、地域住民の視点で喧々諤々に話をしてもらう</li> <li>6、ポストイットに気がついた問題点を記入してもらい、まち歩き後のシンポジウムで意見交換する</li> </ol>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まち歩きの指針となる紙（自由記述欄参照）</li> <li>・ポストイット</li> <li>・ペン</li> <li>・名札</li> </ul> <p>※地図なしのまち歩きのため、参加者には地図は配布していない</p>
参加人数	全参加者41名 学生15名（一般参加者5名）、大学教職員0名、新宿区職員4名、新宿区耐震協議会4名、消防団員4名、地域住民12名（消防団含む）

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

<b>経費の総額・内訳概要</b>	総額 約6500円 施設費 0円 (大学施設貸与のため) 文具費 約6000円 飲料費 約500円 (参加者などに配布)
<b>成果と課題</b>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図なしのまち歩きを実施したことで、参加者間のコミュニケーションを取ることができ、相互の問題意識や情報を交換することができたこと</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学は組織内のコンセンサスが取れない段階で大学側の発言できないとして、大学関係者の参加が見送られたこと</li> <li>・地域住民の参加を期待していたが、選定曜日が悪く、事前の告知規模に比べ参加者が少なく、地域住民の考えや意見を十分に反映したものにできなかったこと</li> <li>・早稲田レスキュー内で企画に対する理解度に差があり、グループごとにまち歩きの内容が微妙に異なったこと</li> </ul>
<b>成果物</b>	まち歩き時に得た情報をもとに作成したマップ (自由記述欄参照)

# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ プ ラ ン 最 終 報 告 書

## 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>(苦勞した点)</p> <p>1、団体間での共通した意識が確立できないまま、チャレンジプランありきで企画が進行してしまった。そのため、企画内容のコンセンサスを取れないまま時間が過ぎ、企画の方向性や展望が描ききれなかった点に苦勞した</p> <p>(工夫した点)</p> <p>2、初めはオリエンテーリングというゲーム要素を盛り込んだものにする予定だったが、アイデア不足で窮した。団体間で話し合いを重ねるなかで、早稲田周辺地域の問題は何かという原点に戻って、早稲田地域に相応しい企画を再度練り直すことができたこと</p>
<p><b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>(苦勞した点)</p> <p>1、当初予定していたメンバー数が確保できずに、活動させざるを得なかった点 元々の活動できるメンバーが5人ほどしかいなかったが、就職活動や学業等で実際に活動できるメンバーが2人しかいなかった</p> <p>2、実動メンバーが少ないことで、行政や大学との交渉が十分に行うことができなかった点。そのため、準備期間が全体的に逼迫することになり、関係各所との事前の情報交換が十分に行えなかった。</p> <p>(工夫した点)</p> <p>3、自力で解決しきれなかったため、OBや地域住民に意見を求めざるを得なくなったが、結果として、地域について問題点が明確な人材と情報交換を取ることができた点</p>
<p><b>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>(苦勞した点)</p> <p>1、早稲田レスキューの中で活動できる人数が少なかった点。特にまち歩きについては、当日は各班にコーディネータと記録係を1名ずつ配置したが、各班にもう1名ずつ記録係を配置して意見交換の様子を記録できれば理想的だった。どうしても1人で発言を記録すると拾いきれない意見があったことから</p> <p>2、早稲田レスキュー主催で行う大きなイベントは事実上これが初めてで、運営面で不慣れな点が露呈してしまった点。まち歩き中の時間の管理が不十分で、終了までが早い班と遅い班が生じ、不要な待ち時間ができたしまったことから</p> <p>(工夫した点)</p> <p>3、区の職員や耐震協の方をまち歩きの各班に配置したことで、学生や地域の方だけでは出てこない、踏み込んだ話まで出てきた点</p> <p>4、まち歩きの要所で、「もしここで地震が起きたら」という想定で互いに議論をしてもらった点。こうした話が口火となり、全体として活発な意見交換が行われた</p>



# 防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	・ 早稲田大学 (総務部、総務部環境安全課、平山郁夫ボランティアセンター)	大学主催の防災訓練に参加、学生向けの防災教育授業(インターネット講義)への参加、防災施設の開放、施設利用、広報活動
保護者・ PTAの組織	・ 早稲田小学校PTA	防災キャンプの広報
地域組織	・ 新宿消防団 ・ 早稲田大学周辺の町内会 (親和会、和敬会、早稲田早栄会) ・ 早稲田大学周辺の商店会 (大隈通り商店会、早大通り・商栄会、南門通り商店会、西門通り商店会、早稲田商店会、ワセダグランド商店会)	情報提供、広報活動、町歩きへの参加、シンポジウムへの参加
国・地方公共団体・ 公共施設	・ 新宿区危機管理課 ・ 新宿区耐震補強推進協議会 ・ 新宿消防署	情報提供、まち歩きへの参加、シンポジウムへの参加、防災体験学習への協力
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 7. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<p>チャレンジプランに応募させていただいた当初は、まち歩きにオリエンテーリング要素を導入する事で、ゲーム性を持った、世代間にまたがって地域の課題を発見していけるようなツールを作るという視点であった。しかし、中間報告会などのご指摘や、団体内でのミーティングにおいても「オリエンテーリング」という言葉が先歩きし、具体的な企画が練りあがらなかった。そこで、視点を一回オリエンテーリングから外し、もう一度早稲田という地域における災害時の資源や課題は何かを振り返り目的を定めた。目的から、具体的なプランに落とし込むことが出来た事で、「防災キャンプ」、「防災訓練」、「防災アカデミー」といったこれまで単発で終わっていた地域と大学の防災イベント1つの目的に関連性のある、一貫性のある防災企画とすることができた。また地図上で表現不可能な地域の資源や課題が、様々な主体から情報として聞き出すことができ、共有出来た事は大きな成果を残せたと考える。</p>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<p>プランを通して、団体内において個々人に主体性と計画性が欠如していた。また本プランに参加させていただくに当たって団体が背負う責任の重さを、全員が認識しきれていなかった。その結果、チャレンジプラン事務局を含め多くの方にご迷惑をおかけしてしまった事は最も反省すべき点である。特に、当初から指摘されていた計画の不透明さは早急に対処すべき点であったにもかかわらず、度重なるミーティングにもかかわらず具体的な意見が出てこなかった事も運営の面で反省すべき点だ。さらに言えば、学生から地域や大学に働きかけようという志がありながら、長期にわたり計画を鮮明にする事が出来なかった事は、地域や大学など、団体に協力していただいている方々の信頼を大きく損ないかねなかった事を重々と反省するべきと考えている。</p>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<p>防災アカデミー（地図なしまち歩き）を通して大人が発見したまちの資源や課題をマップに落とし込み、次年度の防災キャンプなどで、子どもがまち歩きをする際に用いる。具体的には大人が発見した資源や課題を箇条書きにし、該当する場所を子ども達にまち歩きをしてもらいながら、地図上に線で結んでもらう。子どもが地図上に結んだ場所と大人が発見した場所が異なることや、新たに資源や課題が見つかると考えている。ここで見つかった違いを次年度の防災アカデミーに活用し、大人と子ども視点での防災マップとして、年間のイベントを通しブラッシュアップしていく。その上で地図上に表されないような課題（ペットのゲージが足りないなど）が出てきた場合、それを新たな地域の課題と考え、防災イベントの中で解決していく（簡易的なゲージの作成など）ような仕組みを作っていきたいと考える</p>

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 8. 自由記述欄 ①

(1) 実践プログラム①「防災キャンプ2009」の補足

### 【プログラム】

1日目	2日目
～13:00 集合、班分け	10:00～ 宿題の答え合わせ
13:00～ 開会式、自己紹介、ゲーム	10:30～ 防災訓練
14:00～ 緊急地震速報を用いた訓練	11:30～ まち歩き
15:00～ おやつタイム(防災カロリーメイト等)	12:30～ 昼食(α米等)
15:30～ 防災迷路・紙芝居・防災グッズの紹介	13:30～ 学習のまとめ、発表
17:00 宿題の提示、解散	16:00～ 閉会式、解散

### 【補足】

・工夫した点

子どもたちに「考」「動」「共」をテーマに体験してもらうよう工夫した

#### ①「考」について

災害時主体的な判断ができるようにするという前提から、緊急地震速報やまち歩き、防災グッズの紹介では、こちらから正解を提示するのではなく、子どもたちに質問を投げかけ、自分たちならばどう考えて行動するか、どこに問題点を見出すかを大切にする。

#### ②「動」について

災害が起こった時に頭でわかっていても行動できないと意味がないという前提から、防災迷路や防災訓練など実際に体を動かすことで、災害に備えるとは何かについて感じてもらうように工夫する。

#### ③「共」について

災害時の「共助」を意識して、周囲の人とのコミュニケーションに重点をあてる意味で、まち歩きや学習のまとめ、発表などで積極的に話し合い、お互いの意見を交換する場を提供するよう心がける。

(2)「早稲田防災アカデミー」でのまち歩き以外の活動について

本企画では、まち歩きの後に、防災体験学習とシンポジウムを実施した。防災体験学習では、気起震車やAED、心肺蘇生などの実習体験、大学構内の防災施設の見学を行った。前者は広く防災的能力の向上を目的で、後者は大学の防災状況を参加者に認識してもらう目的で実施した。まち歩きに参加していない学生にも参加を促し、学生の参加者は35名であった。

シンポジウムは、大学・行政・地域住民・学生間の共通の意見交換の場を作る目的で実施した。しかし、大学はシンポジウムの場での発言できるだけコンセンサスが取れていないとの理由で参加を見送り、結果として新宿区・新宿区耐震協議会・地域住民・学生の四者で意見を交換することになった。現状として、大学を巻き込んだ包括的な議論の場を提供できないことが今後の課題である。

# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 8. 自由記述欄 ②

### (2) まち歩きへの報告

※以下写真による説明になります。



初めの集合写真です。まち歩きの概要を説明しています。



まち歩きです。左の学生に情報を与え、次に発見すべきものを共有しています。



中央の地域住民の方が抱える問題点を述べ、相互に理解をしています。



自動販売機の危険性について学生が述べ、その後専門家が補足しています。



工事現場の危険性について、耐震協議会の方から説明されています。



# 防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 8. 自由記述欄 ③

以下、まち歩き以外の写真です。



防災体験学習の状況です。学生が飛び入りでかなり参加してくれました。



大学の防災施設の案内です。震災時に十分とは言えない備蓄でした。



シンポジウムでは、話し合いの場ができたことが、最大の収穫でした。

### (3) 早稲田防災アカデミーのまち歩きから作った地図

わせたのぼうさいまちはっけんマップ  
**早稲田の防災まち発見マップ**

**まちのチェックポイント**

下のぼんごうとかんけいする場所に線を引いてね。  
書いてないことを発見したら、下の空白にメモしよう。

- ①道ぞいの消火器（しょうかき）を見つけて
- ②見つけにくい消火器はどこにある？
- ③大通りでは、どんな危険（きけん）がある？  
電線（でんせん）、ガラス、落下物（らっかぶつ）は危ないかな？
- ④消火器のあんないで面白いものはある？
- ⑤こうしゅう電話の使い方はわかる？  
お金はあるかな？
- ⑥じどうはんぱいきの重さはどうか？
- ⑦ふくろこうじ（行き止まり）はいくつある？
- ⑧通学路へ進め

発見したことをメモしよう

**大人が発見した**

- ・動物用のケージが足りない。  
地しんがあったとき、かくれるところが動物にもひつようだね
- ・新じゆく区には消火器は4000本あるよ  
でも、だれかのいたずらでこわれてしまい、一年で300万円のお金がかかっているよ
- ・消火器の位置をもっとわかりやすく地図に書かないとわからないね